

# 令和4年度 学校評価計画書

加賀市立片山津中学校

校長 山下 悟

令和4年度 学校評価	
評価の項目	① - 1 教育課程・学習指導
今年度の重点目標	学習サイクルを確立し学習意欲を高める。
具体的取組	各学年と教科担当でその学年にあった家庭学習の取り組み方法を示し、継続して取り組ませる。家庭学習の習慣化を目指し、種々たより、懇談会などの場を通して、家庭における過ごし方（時間の使い方）を含め、保護者の協力を求める。
担当	教務主任・各教科代表
現状及び取組状況	学習習慣が身につけている生徒と身につけていない生徒の二極化傾向にある。全体でも家庭学習の時間が少ない。
評価の観点	(成果指標) 家庭での学習が習慣化した生徒が増えた。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート（生徒②）で 「家庭での学習時間が1時間以上の生徒」が A 80%以上になった B 70%以上になった C 60%以上になった D 60%未満であった
判定基準（備考）	Dの場合は、取組を再検討する。

評価の項目	① - 2 教育課程・学習指導
今年度の重点目標	学習サイクルを確立し学習意欲を高める。
具体的取組	生徒の実態を把握し、学び合いに加え、ICTを効果的に活用して、生徒が「わかった・できた・もっと知りたい」と感じる授業実践を行う。また、授業のエバーサルデザイン化および授業規律の徹底と定着を継続する。
担当	研究主任・教務主任
現状及び取組状況	生徒の実態に応じた実践をしているが、さらに生徒の「わかった・できた・もっと知りたい」を引き出す工夫が必要である。
評価の観点	(成果指標) 授業が分かりやすく、学習意欲が向上した。
実現状況の達成度判断基準	学校評価アンケート（保護者⑧）で「お子さんは授業が分かりやすいと言っている」と、教科アンケート（生徒③）で、「先生の説明や質問、指示はわかりやすかった」が、 A 80%以上になった B 70%以上になった C 60%以上になった D 60%未満であった
判定基準（備考）	一方でDの場合は、指導法を再検討する。

評価の項目	② 生徒指導 ※いじめの未然防止
今年度の重点目標	情報の共有から行動実践へとつながる生徒指導体制を確立する。
具体的取組	「生徒指導委員会・各学年会」や「いじめ問題対策チーム」において情報を共有し、行動実践をスムーズに行うための報・連・相を確立する。また指導体制を確立するために事例検討会(いじめ対応アドバイザー)や校内研修等を行い、日々の体制の確認をする。
担当	生徒指導主事(生徒指導委員会)
現状及び取組状況	情報の共有から指導体制へとスピード感をもって対処・対応ができるように取り組んでいる。
評価の観点	(成果指標) 情報の共有がなされていたか。 情報の共有から方針・指導体制につながったか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート(教師②)で 「問題行動時の組織的対応の体制が整っている」が A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満
判定基準(備考)	Dの場合は、方法・内容を再検討する。

評価の項目	③ キャリア教育・進路指導
今年度の重点目標	系統的な指導と、自分の将来を考えた進路選択をする能力・態度を育成する。
具体的取組	進路だよりを計画的に発行し、様々な情報を適切な時期に伝えていく。また、特活、総合的な学習の時間を中心に全教育活動を通してキャリア教育を行うための全体計画を作成し、3年間を見通した指導を推進していく。
担当	進路指導主事・各学年進路担当
現状及び取組状況	1年生では、働く意義について、2年生では、職業の選択について取り組み、3年生での体験入学や進路学習会を中心に進路指導を行っている。
評価の観点	(成果指標) 様々な活動を通して自分の将来について意欲的に考える生徒が増えた。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート(生徒③)「将来の夢や目標を持っている」が、 A 85%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準(備考)	Dの場合は、指導体系・方法を再検討する。

評価の項目	④ 保健管理
今年度の重点目標	基本的な生活習慣を定着させる。特に歯や口の健康づくりや睡眠時間の改善を図る。
具体的取組	生徒保健委員会の活動で、正しい生活習慣に関する知識を広めたり、母親委員会との協力で家庭との連携を考えていく。また、学校保健委員会等で家庭・地域と情報を共有し、基本的な生活習慣の定着につなげる。
担当	保健主事
現状及び取組状況	むし歯の治療率は年々高まってきているが、春の検診で再びむし歯になっている生徒が多い。またTV・ゲーム・ネットなどで睡眠時間が少なく体の不調を訴える生徒がいる。
評価の観点	(成果指標) むし歯の治療率が向上したか。
実現状況の達成度判断基準	歯科検診でむし歯があった生徒の治療率が、 A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満の場合
判定基準 (備考)	むし歯治療済みカードの回収率。 C・Dの場合は、取り組み方を検討する。

評価の項目	⑤ 安全管理
今年度の重点目標	校内の避難経路の確保と日頃の安全管理に務める。
具体的取組	校内の危険箇所を把握し、防災教育を通して生徒の防災意識を高揚させる。
担当	教頭・防災安全担当
現状及び取組状況	校内の危険箇所を把握していながらも、その解決にまでいたっていない。
評価の観点	(成果指標) 安全点検によって危険箇所が改善されているか。また適切な防災教育が行われたか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート(教師②⑥)で 「職員が安全点検を行い、危険箇所が改善された」が、 A 80%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準 (備考)	C・Dの場合は、方法・内容について再検討する。

評価の項目	⑥ 特別支援教育
今年度の重点目標	校内委員会を月に一回程度開催し、情報交換や生徒理解に努め、個々に応じた効果的な支援について検討する。
具体的取組	校内委員会や研修会を通して、全教職員で共通理解を図る。学年会や生徒指導委員会、教育支援員、SC、専門相談員等と連携してより具体的に個々の支援の方法、内容、変容効果について検証し、実践していく。
担当	特別支援コーディネーター（生徒支援委員会）
現状及び取組状況	事例検討会や校内研修会を開催し、支援の方法を検討している。
評価の観点	（成果指標）生徒は学校が楽しいと感じているか。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート（生徒⑩・⑫）で「学校に行くのは楽しいと思う」と「先生はあなたのよいところを認めてくれている」が、 A 90%以上の場合 B 85%以上の場合 C 80%以上の場合 D 80%未満の場合
判定基準（備考）	一方でもDの場合は、原因を分析し、取組を検討する。

評価の項目	⑦ 組織運営・業務改善
今年度の重点目標	働き方改革を通して教育の質の向上を図る。
具体的取組	校内研修会などを通して、全教職員で共通理解を図る。 校務分掌をチームで分担し、効率化を目指す。
担当	業務改善チーム
現状及び取組状況	働き方改革を意識しながら業務を行っているが、超過勤務時間が80時間を超える職員が数名いる。
評価の観点	（成果指標）勤務時間を意識し、働き方改革が行えているか。
実現状況の達成度判断基準	職員の超過勤務時間の平均80時間以下の人数が A 80%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準（備考）	C・Dの場合は、原因を分析し、次年度の校務分掌や業務内容を検討する。

評価の項目	⑧ 研修
今年度の重点目標	生徒がわかった、できた、もっとやりたいと感じられるように授業改善を行い、学習意欲と学力の向上を目指す。
具体的取組	生徒がわかったと感じる機会を増やし、学習意欲と学力の向上を図るために、各教科・領域・学年で工夫している内容を提案授業、研究授業、互見授業から学び合い、授業改善につなげる。
担当	研究主任
現状及び取組状況	教科の枠を越えた授業研究、互見授業を実施している。 生徒が学ぶための土台をつくる、授業規律の確立を行っている。
評価の観点	(成果指標) わかった、できた、もっとやりたいという生徒の学習に対する意識を高められたか。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート (生⑩) 「授業の内容がわかりやすい」が A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準 (備考)	C・Dの場合は、原因を分析し、次年度の研修内容を検討する。

評価の項目	⑨ - 1 保護者、地域との連携
今年度の重点目標	学校の情報公開を充実させ、保護者や地域の方との連携を深める。
具体的取組	学校の情報を保護者に知らせるためにメール配信を活用し、全員のメール配信登録を目指す。学校からの連絡が確実に保護者に渡るように呼びかけていく。
担当	教頭・情報担当
現状及び取組状況	HPだけでなく、メール配信で学校の状況を伝えていく。HPやメール配信等の内容の充実を図っていく。
評価の観点	(成果指標) 担当者を中心に、充実したHPの更新ができていたか。またメール配信が適宜・適切に行われていたか。
実現状況の達成度判断基準	保護者アンケート (保護者①) で 「学校だよりやHP等で学校の様子わかる。」が A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満の場合
判定基準 (備考)	C・Dの場合は、方法・内容について再検討する。

評価の項目	⑨ - 2 保護者、地域との連携
今年度の重点目標	学校運営協議会の設立に向けて準備を行う。
具体的取組	学校運営協議会の設立に向けての会議や研修を進める。
担当	学校運営協議会準備委員会・教頭
現状及び取組状況	学校運営協議会が設立されておらず、職員にも周知されていない。
評価の観点	(成果指標) 学校運営協議会の準備委員会の進捗状況と協議会について職員に周知されたか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート(教師⑳)で 「学校運営協議会について周知され、準備が進められた。」が A 80%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準(備考)	C・Dの場合は、方法・内容について再検討する。

評価の項目	⑨ - 3 教育環境整備
今年度の重点目標	授業でのICT活用の推進
具体的取組	GIGA研修を行うことや、ICT機器の操作方法を理解し、授業で適切に活用できるように取り組む。
担当	GIGA担当者・教頭
現状及び取組状況	一人一台のPCが配備され、授業および朝礼等で使用はしているが、その使用には個人差があり、ICT機器の効果的な活用にはいたっていない。
評価の観点	(成果指標) アプリケーション指標項目10個のうち、いくつ授業で活用できるようになったか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート(教師㉑)で 「アプリケーション指標の中で、授業でいくつ活用できたか」の 個数が A 6個以上の場合 B 5個以上の場合 C 4個以上の場合 D 4個未満の場合
判定基準(備考)	Dの場合は、方法・内容について再検討する。